

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年6月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3894000037
事業所名	グループホームきらり
(ユニット名)	うみ
記入者(管理者)	
氏名	萩森 日出子
自己評価作成日	1 年 7 月 16 日

<p>【事業所理念】 わたしたちは、ひとりひとりの「きらり」と輝いた時代を大切に、泣き笑いを共に分かち合い、今また「きらり」と輝ける暮らしを支援し応援いたします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①ゆとりを持って声掛けや援助が行える。 以前に比べれば、意識して声掛けや笑顔を作っている。やりたい事等の問いかけも行って、直ぐに出来る事は行っているが、外食や買い物等は、職員数の関係ですぐには行けず、計画をたてても急な受診で中止したこともあった。しかし何とか連れて行ってあげたいと言う意識は以前より強くなっている。 ②自分がされたいやだと思ふ声掛けや、返答はしない。 3か月に一回の身体拘束廃止委員会の開催もあり、スピーチロックの廃止に取り組んでいる。良い方向には向かっていると思うが、利用者様の事を思うあまり、「危ない」「座って下さい」等の言葉が出て、いけなかったと反省している時もある。今後もこの取り組みは継続して行こうと思う。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設11年目を迎える事業所は、周囲が田園に囲まれた静かな環境の中にあり、利用者は安心して生活を送っている。利用者にはレクリエーションや作品作り、手伝いなど、自分ができることを楽しみながら取り組んでもらうよう職員は声かけに工夫するほか、雰囲気づくりにも努めている。職員は利用者本位の支援を心がけ見守ることの大切さを念頭に、利用者が好みの服装や髪型に整えるなどおしゃれをし、その人らしさが出せるよう日々ケアに励んでいる。</p>
---	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>記録を共有し、ご家族の意向も聞き、把握に努めている。</p> <p>ご家族の意見を参考にし、本人の生活歴等も鑑み、検討している。</p> <p>面会の際に、お話を聞いている。</p> <p>アセスメント表等を活用し、本人の思い・希望の欄を作り、担当者以外も気付いた時にそこに記入するようにしている。</p> <p>色々な方面から考え、意見江尾出している。</p>	◎	/	○	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望等を把握するようにしている。意思疎通が困難な利用者は、表情やしぐさなどから把握するよう努めている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入所時に一応の話を聞き、記録する。家族が来れば、話を聞き、その人を理解する手がかりとしている。</p> <p>日々の生活の中で把握に努め記録し、それを会議の中で話し、共有するようにしている。</p> <p>日常の場面場面で、観察に努め、把握できたこと・その時の状況を記録し、共有出来る様に努めている。</p> <p>家族が来られた時に、お話しし、要因が解る事もある。また関わりのなかで、上手くいけばそれを記録に残し、共有している。</p> <p>記録を細目に行う事と、普段と異なる状態であれば、詳しい記録を残すように努めている。それを繰り返す事により、把握している。</p>	/	/	○	入居前に事前面接を行い家族や介護支援専門員から、これまでの生活歴やこだわり等の情報を収集している。利用者や家族から得られた新たな情報は、その都度追記し職員間で共有している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>担当者がおり、本人の視点に立ち、意見を出したりし、検討している。</p> <p>カンファレンスで検討している。出来るだけ実行できるように心掛けている。</p> <p>課題は明らかになっていると思う。それが本人にとって、課題ととらえられるかどうかは話し合い、本人の立場になって考える様に努めている。</p>	/	/	○	利用者や家族から得た情報をもとに、利用者の視点で話し合い検討している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	困難な事もあるが、出来るだけ希望や思いが覆っている様にかンファでも検討し、立案している。	/	/	/	利用者からの要望に応えられるよう家族や関係者等と話し合い、それぞれの意見を反映して介護計画の作成に努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族の意向は聞くも「特にありません」「今まで通りでおねがいします。」が多く、本人も希望を言われる方は少ないが、日々の会話や面会時のお話し等から、本人・家族の意向をくみ取るように努めている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になると意志を伝えない方が多く、その方の思いを把握する事が困難であるが、気持ちよく安楽に生活出来る様に皆で検討したプランをたてている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ほぼ職員が行うが、家族や知人にも協力をお願い出来る所は、協力して頂き、安心して暮らせるようなプランの立案に努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスでも話し合い、普段も職員間で話し合い共有出来ている。	/	/	○	利用者個々の介護計画について、カンファレンスで話し合うなど内容を確認・理解して、職員間で共有している。介護計画に沿ったケアの実践については、毎月モニタリングを行いカンファレンス記録に残すことによって、職員間で確認・共有し日々のケアに活かしている。利用者の表情やしぐさ、職員の気づきなどを実施記録や申し送りノートに残し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	記録には残している。カンファで話し、今後の支援について協議している。日常のケアでもプランの実行を意識している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	職員のレベルにより、記録が詳しく書いている者とそうでない者がいるが、いつもと違う時は、赤字で記入出来ている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送りノートに、Aさんには〇〇してください等と記入している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三か月～六ヶ月でプラン見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は3か月～6か月の間で見直しを行い、毎月現状確認を行っている。入退院など大きな変化が生じた場合は、医療関係者や家族の意見を聞いて見直しを行い、現状に即した介護計画の作成につなげている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に一回のモニタリングを全員行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院等により変化があれば、退院時に計画を見直し、変更している。その際は、医療関係者の意見を取り入れ、ご家族にも確認を退院前カンファで行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	会議は基本月に一回である。大きな問題が発生した時には、臨時で行う事がある。	/	/	○	毎月カンファレンスを行うほか、緊急時はその都度管理者と職員で話し合い課題を解決するようにしている。参加できない職員にはカンファレンス記録や申し送りノートで伝達・共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見の出やすい様に、司会者は頑張っている。最初の頃に比べ、意見は多く出る様になった。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	シフトの都合で、参加出来ない職員はいる。他の職員は全員参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を書き、引き継ぎノートに挟み、内容を伝え、皆にサインをしてもらっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートを作っており、それを読めばサインするようにしている。会議記録も読めばサインしている。	/	/	○	受診ノートや連絡ノートによって職員間で共有するほか、大切なことは口頭で丁寧に説明するなど確実に伝達するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	上記同様。連絡事項等は、ノートを利用している。家族とのやり取りは介護記録に記入している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話や態度から、本人の思いをくみ取り、叶えられるように努めている。	/	/	/	毎日の衣服やおやつのお菓子選び、取り組みたいレクリエーションなど、自己決定できる機会を提供している。職員は日々の生活の中で利用者の生き活きた言葉や表情が得られるよう声かけや雰囲気づくりを工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時の衣類を選んだり、バイキングで選んだりされるも買い物等に行っても何を選ぶか戸惑う方も多い。しかし自己決定出来る様に支援する大切さを理解している。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	職員の都合や、人数等により、出来ていない事もある。しかし姿勢としては、利用者の希望を聞き、話し合せて納得出来る様に働きかけたり、声掛けや話し方も一人一人に合わせて、行えるように気を付けている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床が、10時近くになる方もいるが無理に起こしたりはしない。入浴に関しては、なかなか思い通りにしてあげられなく、業務のちろに合わせた時間になっている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	失礼な言い方をしない様には心掛けている。うたの好きな方が多く、一緒に歌を歌ったり、昔の話をすると笑顔や笑い声を聞かせてくれる。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	コミュニケーションに問題のある方も多くなっているが、必ず声掛けを行い、状態観察をし、安心して暮らして頂ける様に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権擁護の研修に参加した職員が、勉強会で報告を行い、カンファ等でも、社長からの話もあり、常に意識出来る様になってきた。	○	○	○	代表自らが講師となり人権や尊厳をテーマで研修したり、管理者が地元で開催される人権擁護の研修に参加し内容を職員全員に周知したりするなど、職員が利用者のプライバシー等に配慮した声かけを常に意識してできるよう努めている。身体拘束委員会ではスピーチロックの廃止に取り組むなど、職員の意識は高まっているが、安全を優先するあまりつい大きな声をかけてしまうこともあるため、今後はさりげない声かけを徹底することが望まれる。居室に入る際は、必ずノックをし利用者の許可を得てから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	出来ている職員もいれば、出来ていない職員もいるが、プライバシー保護は意識している。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	入浴拒否の方がおられ、無理強いすることなく、何気ない声掛けや、本人の希望に添えた介助を行えるように努めている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者に声掛けし、許可を得て居室に入っている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し、順守出来ていると思う。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	編み物・縫い物を教えて頂いたり、一緒に掃除をおこない、感謝をしている。言葉に出し、お礼を言っている。	/	/	/	利用者同士、レクリエーションや食事の際にお互い手を貸す等気遣う姿が見受けられるなど、いい関係性が構築できており、トラブルになることはないが、不穏になりそうな時は職員が素早く仲介するようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解出来ている。助け合っている方もいれば、そうでない方もいる。そのフォローが難しい。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	努力していると思う。利用者同士が助け合ったり、手伝ったりする姿がある。また利用者皆が楽しく過ごせる様に、職員も利用者も声をかけている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起こりそうな時は、間に入り、起こらないように利用者を移動したり、話をする。状況によっては見守りを行う事で利用者同士で、解消できる事もある。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	全ては把握できていないと思うが、入所時のアセスメントとして記録されている分に関しては、把握する努力はしている。またご家族、知人が来られたら、話を聞き、より把握出来る様に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族が話してくれたことに関しては、把握している。時に○○で働き寄ったんよ等と話される事もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族や地域の協力を得て、馴染みの関係が途絶えない様に努めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	そのような雰囲気になれる様に、笑顔で接している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	散歩・ドライブ・買い物・食事・カラオケ等々行っているが、その日の希望によって行く事は少なく、業務に差し支わりが無い時、計画を立てて行っている。	○	×	△	買い物や外食等の外出支援に努めているが、利用者の希望に応じて日常的な外出を行うことは少ないため、今後は重度の利用者を含め、事業所周辺の散歩を継続するなど、定期的な外出支援に取り組むことが望まれる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い時に、日光浴や散歩に行く程度であるが、外の空気に触れると喜ばれる。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	数名の方が、家族の支援で外食出来ている。職員で行ったが、高知県の見残しにある水族館に行き、喜ばれた。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症についての勉強会などを行い、理解は深めている。それぞれが日々認知症ケアに対しどうすれば良いのかと思いつながら頑張っており、不安を与えない様に努めている。	/	/	/	裏庭やりビング等を掃除してもらうなど、利用者は自分のできることを率先して取り組んでおり、職員は見守りに徹しながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	特徴の理解も、ベテランが多くなり、だいぶん出来る様になった。。現在の状態を維持するためには、どの様な事をするのが良いのかは、話し合いを持ち行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守るケアの大切さをわかってきたように思う。職員が裏の掃除をしていると「私がやる」と言ってきた方がいる。以前は危ないかな？寒いかな？と断ったりしていたが、今は「ありがとうございます」とお願いしたり、一緒にさせてもらったりしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	それぞれ好きな事、嫌いな事があり、レクにしても手伝い等についても、やりたいことをやって頂くように無理強いないで、行えるように支援している。	/	/	/	洗濯物をたたんだり日めくりカレンダーを変えたり、レクリエーションの司会をするなど、利用者にはそれぞれ役割や出番があり、楽しみながら取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	例えば歌を歌っても、皆様をリードして、次は○○ですよと言う方もいれば、小さな声で歌われる方もいる。他者の歌詞カードを開けて下さる方もいる。それぞれの役割が、色々な場面であり、それを理解して支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	出来ていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	普段好んで着られる服などは把握できている。身だしなみには注意し、重度な認知症や障害があってもその方の尊厳が守られる様に気を付けている。				食べこぼしや口の汚れなどがある場合は、職員がさりげなく拭くなど、利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。重度の利用者を含め、訪問美容等で自分に似合う髪型にするなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の好みを尊重している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	出来るだけ本人の着たい物を着て頂くが、アドバイスも行う。またご家族が、本人に合うと思う物を持って来られる。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援しているが、頑固で強く拒否されそのまま更衣しない方もいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしをしたり、周辺や口の周囲を汚れる方もいるが、尊厳を傷つけないように、片付けたリ、拭いたりしている。利用者様も「まあまあすみません。ありがとうございます」と笑われている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	望まれる方は行ける様にしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	気を付けており、ホームに美容師が来られ、カットしてもらったり、髭剃りは毎日行い、衣類なども家族と協力して、気候に合ったものを着て頂いている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	一人一人にあった食形態の提供に努め、その理由も職員は理解している。利用者様にもこれは〇〇ですよ等と説明している。				利用者によっては職員と一緒に食材の買い物に行き、買い物から帰ると買った食材を率先して運んでくれたり、下膳の手伝いをしてくれたりと自分できることを職員と一緒に取り組んでいる。地域住民からお裾分けのタケノコや栗など旬の食材を使用したり、行事毎に利用者が喜びそうな季節感のあるメニューを提供したりするなど工夫している。食器は使い勝手の良いものを使用しており、古くなると家族が新しいものを持ってくるようにしている。職員は利用者と食卓を囲み、利用者一人ひとりの様子を見守りながら食事をしている。重度の利用者を含め、調理の音や匂いを感じてもらっている。居室で食べる利用者もいるが、その場合は必ず職員が寄り添いメニューのことを話しながら介助している。利用者の状態に応じ職員間で栄養バランスのことを話し合い、医師の指示を受け、栄養に偏りがないように配慮している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	少人数ではあるが、料理の手伝いや片付けと一緒にしてくださったり、買い物して帰った職員を玄関まで迎えに行かれ、荷物を運んでくださったりする。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒に行ってくださる方は、ご自分も職員と同じように感じられている。お元気ではずらつとしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握しており、アレルギーについては、十分注意をしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	献立作りは、主として栄養士が行っているが、季節の物などを頂いたり、誕生日・イベント等の時は、職員が話し合い、献立を作っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	状態に合わせた工夫や、調理を行っているが、ミキサー食の場合、おいしそには見えないと思うが美味しいですよ等の声掛けをしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族が持って来てくださるが、状態によりコップや匙等は、職員が購入してくる事もある。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	昼食は共に、同じものを食べている。昼食だけでなく、朝・夕食も見守りし、ゆっくりと食べる様に声掛けたり、味付けについて話をしたりする。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音が聞こえ、匂いはわかると思う。食事の前になると声掛けなくとも居室から出る方も居られ、「私の食事あるの」と聞く方もある。待ち遠しいのか不安なのかはわからないが、食事には関心を持っている方が多い。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	特に水分には注意をしている。献立は栄養士が作っている。個々の摂取量は微調整を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	嚥下や咀嚼の問題があって摂取量が少ない方には、医師に相談したり、ゼリー状にして水分を摂取して頂いている。またミキサー・トロミ等も取り入れ、栄養不足にならないように注意している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が居るので、栄養士が献立をたてている。旬の食材を使った料理が出来る時には、職員間で相談し変更をし利用者が喜ぶ食事を提供出来る様に心掛けている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は毎日買い物し、作り置きをしない。また調理器具は毎日ハイター等で消毒している。ノロを心配する時期は、出来るだけ生物は食べない。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	起床時と毎食後に口腔ケアを行い、口腔残渣物が誤嚥性肺炎に繋がる危険性がある事も理解している。				職員は利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握しており、毎食後歯磨きやうがい、スポンジブラシなどを使用して利用者個々の口腔内の清潔が保持できるよう支援している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯の有無等は理解しているが、それ以上の事は訴えがあれば、観察し看護師に相談している。			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学んでいない					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来ない方もおり、職員が洗浄している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯磨き・うがい等は声掛けや介助を毎食後行っている。どうしても拒否される方もいるが、次の食後に声掛けをあきらめずに行っている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	本人の訴えや、職員の気づき、家族の希望に対応して、適宜歯科受診を行っている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ほぼ理解出来ており、下肢筋力の低下のある方でも、尿意がありトイレに行きたいと希望される方は、介助してトイレにて排泄を行って頂いている。				日中はトイレでの排泄を基本に支援している。布パンツにパッドを当てることやリハビリパンツやテープ止めおむつ、パッドの種類、交換時間など利用者それぞれの適正性について職員間で検討することで、利用者一人ひとりのその時の状態に応じた支援に努めている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	ほぼ理解出来ている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	チェック表にて大体把握出来ている。便秘者が下剤使用にて反応便が出る時間帯も大体把握出来ている。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個々のその時にあった支援を行っている。パットの種類も考慮し、パンツにしても状態によっては、布パンツか紙パンツかという話し合い等は行い、パッドも個人により時間帯により変更している。	◎		◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	便秘に関しては、水分・野菜・果物の摂取、運動の勧め等を行っている。また頻尿にて睡眠不足の方等は、医師に相談する事もある。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンが大体把握出来ているので、出来ている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	こういう物(パット・パンツ等)があるので、使っていいかと言う了解は取っている。またどうしても布パンツを使用したいと希望される方には使って頂いているが、家族にも状況を話し、今適している物を使用できるようにゆっくりと進めている。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	一人一人のその時に合った物を使っている。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取の大切さや、野菜を食べる事の効果などを、特に家族が来られた時に、一緒にお話をさせて頂くとその時はご本人も良く理解される。日々、水分野菜・果物などの摂取に注意している。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴の長さや温度は出来るだけ、本人の希望を聞くが、体調によっては早めに出て頂く事もある。拒否のある方が、入ると言われ、夕方入って頂いた事はある。	◎		○	入浴時間の長さや湯音等は利用者の好みに合わせている。入浴日はある程度決まっているが、利用者からの要望があれば臨機応変に対応している。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	普段あまり話さない方が、入浴中にはおしゃべりをされる。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身・更衣等、出来る方は見守りで行っている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間をおいて、再度声掛けしたり、声掛けの職員を変えたりしている。どうしてもダメなら、翌日に変更して様子見る。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタル測定を行い、判断できない場合は、看護師に相談している。入浴後も水分補給などを行い、疲れているようなら、臥床を促している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	大体は把握できている。夜勤帯は1時間毎に巡視を行い、状態観察を行っている。	/	/	/	良眠を得られるよう日中の活動を増やし、部屋の室温を十分配慮するなど、安易に薬剤に頼らない支援をしている。不眠が続く等やむを得ない場合は、医師と相談しながら薬剤を処方してもらっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	レクに参加したり、散歩・外気浴を行ったりしている。本来のリズムが、夜起きていたという方も居り、無理に眠らせようとはしない。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠導入剤を使用している方もいるが、転倒などの危険もあり、あまり使用しない様に努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	休みたい方には休んで頂き、体調がおかしい方には、声掛けし休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望者は出来ている。年に一回だけ新年に年賀状の様な物を、書いて頂き、家族に送っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	難聴の方には、話を聞きそれを伝えたり、手紙を書いてみないかと働きかけたりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望者には電話をかけて頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡し、電話で手紙が届いたと話して頂く。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族にもお願いしており、ケアプランに入っている方もいる。週に2回程かけて来られる家族(遠方)もおられ、ありがたいと思う。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を持っていると言う喜びや自信は理解出来ている。しかし所持されている方は数名であり、ほとんどの方は、家族が買い物をしてきている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物レクを行う時は、喜んで行かれるが、日常的には買い物には行かれない。特定の方になる。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	美容院等は、入所前から利用されている事もあり、協力を頂いている。利用者も安心して話をされている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	一部の方が所持しているが、使う事は稀である。買い物レクがあり、希望者については、買い物に行き、事業所が立て替えている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	使う時は相談するが、持っている方は一部である。ほとんどの方は、〇〇を買っていいかと聞く程度。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かっている方には、きちんと出納帳を記入し、毎月家族に送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	定期的受診、緊急時の受診等、職員が行っている。また買い物・散髪・カラオケなども出来るだけ希望に沿える様に努めている。	◎	/	○	緊急の病院受診や買い物、散髪等利用者からの要望があれば職員が付き添うなど、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門扉は無く、自由に入れる。玄関も一般家庭のようにしており、玄関に続くスロープの周囲には花や野菜を植えている。ベンチも設置し、利用者同士が話し合っている事もある。	◎	○	○	玄関には季節の野菜や花が植えられているほか、ベンチを置きリラックスできる空間づくりをするなど、気軽に入出入りできるよう配慮している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的とは言えないかもしれないが、毎月の季節に合った壁画を飾ったり、行事の写真を飾り、嬉しそうに見ておられる。浴室などは家庭浴槽であり、落着いて入浴出来ると思う。	◎	○	○	開設以来、家庭的な雰囲気を大切にしており観葉植物を置くなど、心地よさを感じられる空間になっている。リビングは広く明るく整理整頓され、清掃も行き届き清潔感がある。壁にはひまわりや花火、ぶどう等利用者と職員が一緒に作った作品が飾られているなど、季節感を味わうことができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気の時間も取り、掃除は頑張っている。食事の時間などはテレビを消している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾り、季節の壁画を作っている。台所で食事を作る音や匂いを感じている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自分の好きな場所に座っている。仲の良い利用者同士と一緒に過ごす事が多い。また一人になりたい時は、ホールのすぐ近くに個室がある。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	浴室は良いが、トイレは戸を開けたままの方もおり、見える場合があるので注意している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時には、自宅で使っていたものを持って来て頂くように話している。	◎		◎	居室は大切な家族の写真や時計等利用者それぞれ思い思いの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせる空間になっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	移動の為に手摺を付けている。そこで足踏み運動も行う。玄関には一人で靴の着脱が出来る様に、椅子を置いている。自室の入り口には、名前と写真を貼っている。			○	足元には不要なものがなく、廊下にはほどよい位置に手すりを取り付けられており、車いすでも自由に移動できるようになっている。居室には写真付きの名前を貼るなど工夫しており、安全に自立した生活が送れるようになっている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレの表示をつけたり、居室の入口には、名前と共に写真を貼っている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	裁縫道具は、使用しているが、直ぐに手の届く所にはおいていない。掃除道具は置いてあり、何時でも使うことが出来る。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	度々の勉強会などにより、鍵をかけるはいけないと皆理解している。その為の事故も起きない様に気を付けている。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関等の出入口は施錠しておらず、自由に入出入りできるようになっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	夜間以外は施錠していない事は話している。家族からも施錠の希望は無い。あれば、理解をして頂ける様に話すつもりである。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中はもちろん施錠はしていない。外に出ようとする方もいるが、一緒に行き、散歩のように近くを歩き、施設に帰るようにしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント表と共に、月1回のカンファレンスにおいて、症状が変化し、注意点等が変わった方については話し、皆で共有出来る様に努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	早期発見には努めていると思う。バイタル測定も注意が必要な方は、数回回るように話している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師には相談が良くある。また異常と思えば、受診し、医師に相談を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人・家族の意志を尊重している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	医療の内容については、家族の思いは明確には解らないが、家族の希望による受診援助を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	異常などがあって、受診をした場合は、必ず報告をしている。必要とあれば、家族と共に受診し、説明を聞いている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	外来・病棟に於いて、状態を聞かれる。また介護サマリーの提供も行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室からの連絡のより、カンファレンスに出向いている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	退院後等も連絡を頂いたり、病院に行った際に地域連携室の方に相談する事もある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	施設内の職員として、看護師がおり、報連相は出来ている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間でも休日でも電話連絡を行っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃より、連絡相談を行い、変化があれば受診をし、早期発見・対応に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ほぼ出来ている。特に自分の担当者については、良く理解出来ている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	投薬前に、名前・日付け・朝昼夜等の区別を口に出して投薬している。また吐き出す方も居るので確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	副作用などを気にすることが出来る様になってきている。心配な事があれば看護師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	臨時薬の服用などにより、排泄障害や精神障害が出る事も理解できるようになり、看護師に相談をしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時には、あまり話していない。状態が変化してくれば、その時その時に、家族に話している。	/	/	/	利用者や家族、医師等関係者を交え、重度化や終末期のあり方について話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	ターミナルケアを行うとなった時点では、医師などにも話し、共有、協力出来ていると思う。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	行っているつもりである。無理をしても良いターミナルケアは出来ない。また怖がっていても進歩は無いので、考慮している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	できること・できないことに関しては、入所前の訪問時、および入所時に話しているが、理解できない？忘れる家族もいる。入所後も状態に応じて繰り返し話す事もある。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族との話は良く行っていると思う。現在元気な方の家族は、ピンと来ていないが、重度化している方の家族は、真剣に考えられている。特養などを望まれる方には、申込書を代筆し施設に持っていく。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	努力しているつもり。家族からつらさや愚痴を話される事もあり、対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	町の研修などを受けたものが、勉強会で発表したり、インフルエンザの流行期に話をする。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練は出来ていない。対応については決めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	県や町からの情報は、注意して参考にしている。また町内の他の施設や学校などの情報も取り入れて対応している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	上記に同じ	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は徹底できていると思う。来訪者の方にも協力をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族が来られた時には、現在の状況を報告し、こんなことをしてもらった、こんなことも出来た等々、出来るだけ細かく話している。また体調不良で、点滴を病院で行う時は、付き添ってくださる方もいる。	/	/	/	家族に夏祭りや敬老会等行事の案内を送付し参加してもらっている。また、利用者の様子がわかるよう行事の写真などを添え報告している。事業所の事柄は、面会時に報告することが多く、家族全員に報告するまでには至っていないため、今後は職員の異動等を含め家族全員に報告する取組みが望まれる。家族の面会時には必ず声をかけ意見や要望を聞くようにしており、職員からは利用者の日頃の様子を伝達するようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	宿泊は希望されれば、受け入れ出来る。来られたら笑顔で迎え入れ、帰られる時は、よほどのことが無い限り、玄関までお見送りをし、お礼を言っている。居室に限らず、ホールで面会される方も居られ、他者と会話される方もいる。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事への参加は必ず呼びかけている。花を持って来て頂き、スロープの所の花壇に植えている。ご本人の様子は、写真を送付している。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	電話で話したり、写真を送付している。年始には年賀状を送り、喜ばれた。	/	○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	連絡を行う際は、ご本人の立場に立って困っている事等を相談するような感じで報告する。その際家族の意向や希望等も傾聴するように努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	それぞれの家族に合わせた働きかけを行えるように心掛けている。入所してからも家族との繋がりが続くように、電話を使ったり、行事に参加して頂いたり、面会時にお話などを行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	この外部評価の事や、運営推進会議の案内などは、送っている。来所された際に、職員の異動などは話している。	/	○	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	敬老会などは、昼食前から15時頃まで、一緒に過ごして頂き、顔なじみの方も出来ている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時より、転倒などの事故の可能性も話している。また家族より、柵や薬の使用の話が出て、それによるリスクなども話し、抑制しない介護を行えるように協力をお願いしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来所時には、必ず声掛けをし、関係作りにも努めている。また体調が悪くなっているかたにおいては、頻りに報告をし、家族の要望も聞いている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	出来ている。変更時は書面に説明し、同意の文を貰っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	利用契約書、重要事項説明書に明記し、入所時にも説明している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	上記と同様	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時より、経営者が話し合いを持って説明している。	/	○	/	自治会の清掃に参加したり、自主的に事業所近くの清掃を行ったりして、機会が少ないため、今後は地域とのつながりをさらに深め、事業所の取組みがより地域に浸透するよう努めることが望まれる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会の清掃日には、代表が参加するが、日は違っても、利用者も共に、清掃をし、地区の方からお礼を言われる事もある。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	少しずつだが増えていると思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	夏祭りのイベント時には来て頂くが、普段は遊びには来られない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	回覧板を持って来て頂いたり、持って行ったりしている。時々果物やタケノコなどを頂く事もある。また散歩の際に挨拶は行っており、近くの方に花を頂いたりもした。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事には、必ず来てくださるボランティアの方が居り、顔なじみになっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	買い物や、美容院等に行き、知人に会い喜ばれる事もある。地域のイベントも参加したいが、なかなか出来ない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	日常的に、地域に買い物に行ったり、美容院に行き、外食なども行き、特別に系することなく、普通に交流を行えている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	今年に入り、利用者も参加して頂いている。もちろん家族の参加もあり、一応全家族に案内は送っている。	/	×	△	前回の外部評価結果を踏まえ家族全員に案内を行い、利用者や家族、地域関係者の参加も得られているが、家族の参加が少ないため、家族全員から運営推進会議の理解が得られるよう努めて欲しい。会議では外部評価結果や今後の事業所の取組みなどを報告してテーマごとに様々な意見が出され、実際にサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	現在のきらりの状況を話しており、外部評価の事も話している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回何らかのテーマに基づいた話をし、意見も聞いている。地区の区長さんの参加もあり、秋には避難訓練を地域の方々と一緒に行う話も出た。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加しやすい時間を考慮している。また勉強会を兼ねた場合は、職員が多く参加出来る様に配慮している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	職員は見えるが、ご家族には報告出来ていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、玄関・更衣室に提示しており、職員はその理念に基づける介護が行えるように努力している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関に提示しており、敬老会等で話したこともあるが、地域の方々には話していない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修には出来るだけ参加するように声掛けており、希望すれば研修に行ける様に、勤務調整もやっている。	/	/	/	代表者は週3日程度事業所を訪れ、職員から希望休等要望を聞き勤務シフトに反映してストレス軽減に努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ユニット内にはいり、一緒に仕事をしながら、持っている知識や技術等は教えている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	半年に一回の面談があり、自己評価をつけ、それにより各自の実績を評価、次への意欲を持たせるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内のグループホームの管理者の集まりがあったり、町内の福祉施設の勉強会、町で取り組むイベントなどには参加出来ている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	折に触れ話を聞いてもらっている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	委員会もあり、年に2回の勉強会も行い、理解出来ている。	/	/	/	「スピーチロック」を課題にして虐待防止に取り組むなど、職員の意識も高まっており、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順等についても理解し共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	仕事の中で、反省したり、話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	課題として、「スピーチロック」を取り上げ努力してきた。まだ万全とはいえないが、だいぶ浸透してきており、互いに注意する姿や反省の言葉も聞こえている。対応方法なども学習している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	疲れていないか、体調はどうかと声掛けを行っている。イライラしているかなと思えば、話を聞くようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会などにより、理解出来ている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月1回のカンファレンスの時や、委員会において、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束によるリスクを話し、拘束は行わないと言う施設の方針を理解して頂いている。拘束をしない為に起こり得る危険も話し、怒らない様に努める為に、このようにしたいと言う事等も話している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修を行い、少しずつ理解を深めていっている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	今後必要になるかもと言う事で、ご家族に簡単に話したことはあったが、まだ成年後見人制度を使用した方はいない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要になれば、教えてくださいと言うようにお話をさせて頂いているが、現在は利用していない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルもあり、周知できている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	研修や訓練は行っても、実践力は身につけていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書はもちろんだが、ヒヤリハットの意義も理解出来てきていると思う。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンス等で、このような事が起こり得ると話し、見守りアンテナを張っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作っていないが、対応については適宜話している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	町に相談するまでの苦情はないが、苦情が出れば、上司に相談し対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	出来るだけ早く解決できるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設置している。入居者からは、日々の生活の中で、困っている事嫌な事等も言ってもらえるような関係作りにも努めている。			○	利用者からは日々の生活の中で、家族からは面会時や運営推進会議、家族会でそれぞれ意見や要望を聞いている。管理者は職員から意見や提案等を気軽に聞ける関係を築いており、日頃から利用者本位の支援を行う運営について話し合う機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設けている。面会に来られた時に「何かご要望は無いですか」と聞いている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に貼りだしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	度々来られ、職員の中に入り、話を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃からユニットと一緒に仕事をしており、勤務中に意見や提案を聞く機会も多い。利用者中心の介護を行えるように努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員全員で取り組んでいる。				運営推進会議で今後の事業所の取組み等について報告しているが、参加者にモニターをしてもらうまでには至っていないため、今後は参加者から事業所の取組みのモニターをしてもらえる程度の理解が得られるようになることが望まれる。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	外部評価の結果を職員に話し、事業所の問題点を明らかにし、改善できるように努めている。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、説明・掲示している。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で説明し、家族にも送っている。モニターはしてもらっていない。	○	○	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	次回の目標を話す時に、成果の確認をしている。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	必要と思われるマニュアルは作成している。				年1回消防署立ち会いで火災避難訓練や年2回津波避難訓練を行っているが、地域住民参加の合同避難訓練の実施には至っていないため、利用者の安全確保に万全を期すためにも、今後は地域との合同避難訓練を実施するなど、緊急災害時の協力支援体制の構築に努めて欲しい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日勤帯と夜勤帯と言う事で訓練を行っている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は外部に委託して行っている。非常用食料は、水と乾パンを準備しているが、期限が切れた事もあった。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、訓練の依頼などを行えている。運営推進会議の中でちいきの方々とは今秋には訓練を行う話が出来ている。		○	△		△
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行っていない					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議においては、認知症ケアや予防などについて話している。しかしそれ以外の活動は行っていない。				入居申込み時等に利用者家族の知人等からの相談を受け助言を行っている程度で、地域の相談ニーズには対応できていないため、今後は相談件数が増えるよう地域へのPRなどを積極的に取り組むことが望まれる。診療所の納涼祭や地元のふれあいいきいきサロン、小学生の太鼓披露や高校生のボランティア部の夏祭りなどへの協力を行っているが、関係機関と協働のイベント実施には至っていないため、今後は事業所と地域機関との連携の地域行事等を企画・実施するなど、地域における福祉の拠点になることを目指して欲しい。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入所申し込み時や施設見学時に相談を受ければ話しているが特に相談会は催していない。散歩のときに相談されたり、入所者様家族から「こんな人がいる。どうしたらええ？」等の相談は受けている。		×	△		
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていないが、要請があれば行って行きたい。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	要望が無いため行っていない。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町内会に入っており、清掃活動への参加している。地域イベントにも参加している。他事業所の夏祭りへのボランティア参加も検討しており、自施設のイベントには、他事業所の参加もあった。			△		

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年8月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3894000037
事業所名	グループホームきらり
(ユニット名)	そら
記入者(管理者)	
氏名	萩森 日出子
自己評価作成日	1 年 7 月 16 日

<p>【事業所理念】 わたしたちは、ひとりひとりの「きらり」と輝いた時代を大切に、泣き笑いを共に分かち合い、今また「きらり」と輝ける暮らしを支援し応援いたします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①ゆとりを持って声掛けや援助が行える。 以前に比べれば、意識して声掛けや笑顔を作っている。やりたい事等の問いかけも行って、直ぐに出来る事は行っているが、外食や買い物等は、職員数の関係ですぐには行けず、計画をたてても急な受診で中止したこともあった。しかし何とか連れて行ってあげたいと言う意識は以前より強くなっている。 ②自分がされたいやだと思ふ声掛けや、返答はしない。 3か月に一回の身体拘束廃止委員会の開催もあり、スピーチロックの廃止に取り組んでいる。良い方向には向かっていると思うが、利用者様の事を思うあまり、「危ない」「座って下さい」等の言葉が出て、行けなかったと反省している時もある。今後もこの取り組みは継続して行こうと思う。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設11年目を迎える事業所は、周囲が田園に囲まれた静かな環境の中にあり、利用者は安心して生活を送っている。利用者にはレクリエーションや作品作り、手伝いなど、自分ができることを楽しみながら取り組んでもらうよう職員は声かけに工夫するほか、雰囲気づくりにも努めている。職員は利用者本位の支援を心がけ見守ることの大切さを念頭に、利用者が好みの服装や髪型に整えるなどおしゃれをし、その人らしさが出せるよう日々ケアに励んでいる。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>記録を共有し、ご家族の意向も聞き、把握に努めている。</p> <p>ご家族の意見を参考にし、本人の生活歴等も鑑み、検討している。</p> <p>面会の際に、お話を聞いている。</p> <p>アセスメント表等を活用し、本人の思い・希望の欄を作り、担当者以外も気付いた時にそこに記入するようにしている。</p> <p>色々な方面から考え、意見江尾出している。</p>	◎	/	○	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望等を把握するようにしている。意思疎通が困難な利用者は、表情やしぐさなどから把握するよう努めている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入所時に一応の話を聞き、記録する。家族が来れば、話を聞き、その人を理解する手がかりとしている。</p> <p>日々の生活の中で把握に努め記録し、それを会議の中で話し、共有するようにしている。</p> <p>日常の場面場面で、観察に努め、把握できたこと・その時の状況を記録し、共有出来る様に努めている。</p> <p>家族が来られた時に、お話しし、要因が解る事もある。また関わりのなかで、上手くいけばそれを記録に残し、共有している。</p> <p>記録を細目に行う事と、普段と異なる状態であれば、詳しい記録を残すように努めている。それを繰り返す事により、把握している。</p>	/	/	○	入居前に事前面接を行い家族や介護支援専門員から、これまでの生活歴やこだわり等の情報を収集している。利用者や家族から得られた新たな情報は、その都度追記し職員間で共有している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>担当者がおり、本人の視点に立ち、意見を出したりし、検討している。</p> <p>カンファレンスで検討している。出来るだけ実行できるように心掛けている。</p> <p>課題は明らかになっていると思う。それが本人にとって、課題ととらえられるかどうかは話し合い、本人の立場になって考える様に努めている。</p>	/	/	○	利用者や家族から得た情報をもとに、利用者の視点で話し合い検討している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	困難な事もあるが、出来るだけ希望や思いが覆っている様にかンファでも検討し、立案している。	/	/	/	利用者からの要望に応えられるよう家族や関係者等と話し合い、それぞれの意見を反映して介護計画の作成に努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族の意向は聞くも「特にありません」「今まで通りでおねがいします。」が多く、本人も希望を言われる方は少ないが、日々の会話や面会時のお話し等から、本人・家族の意向をくみ取るように努めている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になると意志を伝えない方が多く、その方の思いを把握する事が困難であるが、気持ちよく安楽に生活出来る様に皆で検討したプランをたてている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ほぼ職員が行うが、家族や知人にも協力をお願い出来る所は、協力して頂き、安心して暮らせるようなプランの立案に努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスでも話し合い、普段も職員間で話し合い共有出来ている。	/	/	○	利用者個々の介護計画について、カンファレンスで話し合うなど内容を確認・理解して、職員間で共有している。介護計画に沿ったケアの実践については、毎月モニタリングを行いカンファレンス記録に残すことによって、職員間で確認・共有し日々のケアに活かしている。利用者の表情やしぐさ、職員の気づきなどを実施記録や申し送りノートに残し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	記録には残している。カンファで話し、今後の支援について協議している。日常のケアでもプランの実行を意識している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	職員のレベルにより、記録が詳しく書いている者とそうでない者がいるが、いつもと違う時は、赤字で記入出来ている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送りノートに、Aさんには〇〇してください等と記入している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三か月～六ヶ月でプラン見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は3か月～6か月の間で見直しを行い、毎月現状確認を行っている。入退院など大きな変化が生じた場合は、医療関係者や家族の意見を聞いて見直しを行い、現状に即した介護計画の作成につなげている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に一回のモニタリングを全員行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院等により変化があれば、退院時に計画を見直し、変更している。その際は、医療関係者の意見を取り入れ、ご家族にも確認を退院前カンファで行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	会議は基本月に一回である。大きな問題が発生した時には、臨時で行う事がある。	/	/	○	毎月カンファレンスを行うほか、緊急時はその都度管理者と職員で話し合い課題を解決するようにしている。参加できない職員にはカンファレンス記録や申し送りノートで伝達・共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見の出やすい様に、司会者は頑張っている。最初の頃に比べ、意見は多く出る様になった。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	シフトの都合で、参加出来ない職員はいる。他の職員は全員参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を書き、引き継ぎノートに挟み、内容を伝え、皆にサインをしてもらっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートを作っており、それを読めばサインするようにしている。会議記録も読めばサインしている。	/	/	○	受診ノートや連絡ノートによって職員間で共有するほか、大切なことは口頭で丁寧に説明するなど確実に伝達するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	上記同様。連絡事項等は、ノートを利用している。家族とのやり取りは介護記録に記入している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話や態度から、本人の思いをくみ取り、叶えられるように努めている。	/	/	/	毎日の衣服やおやつのお菓子選び、取り組みたいレクリエーションなど、自己決定できる機会を提供している。職員は日々の生活の中で利用者の生き活きた言葉や表情が得られるよう声かけや雰囲気づくりを工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時の衣類を選んだり、バイキングで選んだりされるも買い物等に行っても何を選ぶか戸惑う方も多い。しかし自己決定出来る様に支援する大切さを理解している。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	職員の都合や、人数等により、出来ていない事もある。しかし姿勢としては、利用者の希望を聞き、話し合せて納得出来る様に働きかけたり、声掛けや話し方も一人一人に合わせて、行えるように気を付けている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床が、10時近くになる方もいるが無理に起こしたりはしない。入浴に関しては、なかなか思い通りにしてあげられなく、業務のちろに合わせた時間になっている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	失礼な言い方をしない様には心掛けている。うたの好きな方が多く、一緒に歌を歌ったり、昔の話をすると笑顔や笑い声を聞かせて頂ける。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	コミュニケーションに問題のある方も多くなっているが、必ず声掛けを行い、状態観察をし、安心して暮らして頂ける様に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権擁護の研修に参加した職員が、勉強会で報告を行い、カンファ等でも、社長からの話もあり、常に意識出来る様になってきた。	○	○	○	代表自らが講師となり人権や尊厳をテーマで研修したり、管理者が地元で開催される人権擁護の研修に参加し内容を職員全員に周知したりするなど、職員が利用者のプライバシー等に配慮した声かけを常に意識してできるよう努めている。身体拘束委員会ではスピーチロックの廃止に取り組むなど、職員の意識は高まっているが、安全を優先するあまりつい大きな声をかけてしまうこともあるため、今後はさりげない声かけを徹底することが望まれる。居室に入る際は、必ずノックをし利用者の許可を得てから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	出来ている職員もいれば、出来ていない職員もいるが、プライバシー保護は意識している。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	入浴拒否の方がおられ、無理強いすることなく、何気ない声掛けや、本人の希望に添えた介助を行えるように努めている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者に声掛けし、許可を得て居室に入っている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し、順守出来ていると思う。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	編み物・縫い物を教えて頂いたり、一緒に掃除をおこない、感謝をしている。言葉に出し、お礼を言っている。	/	/	/	利用者同士、レクリエーションや食事の際にお互い手を貸す等気遣う姿が見受けられるなど、いい関係性が構築できており、トラブルになることはないが、不穏になりそうな時は職員が素早く仲介するようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解出来ている。助け合っている方もいれば、そうでない方もいる。そのフォローが難しい。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	努力していると思う。利用者同士が助け合ったり、手伝ったりする姿がある。また利用者皆が楽しく過ごせる様に、職員も利用者も声をかけている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起こりそうな時は、間に入り、起こらないように利用者を移動したり、話をする。状況によっては見守りを行う事で利用者同士で、解消できる事もある。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	全ては把握できていないと思うが、入所時のアセスメントとして記録されている分に関しては、把握する努力はしている。またご家族、知人が来られたら、話を聞き、より把握出来る様に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族が話してくれたことに関しては、把握している。時に○○で働き寄ったんよ等と話される事もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族や地域の協力を得て、馴染みの関係が途絶えない様に努めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	そのような雰囲気になれる様に、笑顔で接している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	散歩・ドライブ・買い物・食事・カラオケ等々行っているが、その日の希望によって行く事は少なく、業務に差し支わりが無い時、計画を立てて行っている。	○	×	△	買い物や外食等の外出支援に努めているが、利用者の希望に応じて日常的な外出を行うことは少ないため、今後は重度の利用者を含め、事業所周辺の散歩を継続するなど、定期的な外出支援に取り組むことが望まれる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い時に、日光浴や散歩に行く程度であるが、外の空気に触れると喜ばれる。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	数名の方が、家族の支援で外食出来ている。職員で行ったが、高知県の見残しにある水族館に行き、喜ばれた。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症についての勉強会などを行い、理解は深めている。それぞれが日々認知症ケアに対しどうすれば良いのかと思いつながら頑張っており、不安を与えない様に努めている。	/	/	/	裏庭やりビング等を掃除してもらうなど、利用者は自分のできることを率先して取り組んでおり、職員は見守りに徹しながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	特徴の理解も、ベテランが多くなり、だいぶん出来る様になった。。現在の状態を維持するためには、どのような事をするのが良いのかは、話し合いを持ち行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守るケアの大切さをわかってきたように思う。職員が裏の掃除をしていると「私がやる」と言ったださる方がいる。以前は危ないかな？寒いかな？と断ったりしていたが、今は「ありがとうございます」とお願いしたり、一緒にさせてもらったりしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	それぞれ好きな事、嫌いな事があり、レクにしても手伝い等についても、やりたいことをやって頂くように無理強ひせずに行えるように支援している。	/	/	/	洗濯物をたたんだり日めくりカレンダーを変えたり、レクリエーションの司会をするなど、利用者にはそれぞれ役割や出番があり、楽しみながら取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	例えば歌を歌っても、皆様をリードして、次は○○ですよと言う方もいれば、小さな声で歌われる方もいる。他者の歌詞カードを開けて下さる方もいる。それぞれの役割が、色々な場面であり、それを理解して支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	出来ていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	普段好んで着られる服などは把握できている。身だしなみには注意し、重度な認知症や障害があってもその方の尊厳が守られる様に気を付けている。				食べこぼしや口の汚れなどがある場合は、職員がさりげなく拭くなど、利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。重度の利用者を含め、訪問美容等で自分に似合う髪型にするなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の好みを尊重している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	出来るだけ本人の着たい物を着て頂くが、アドバイスも行う。またご家族が、本人に合うと思う物を持って来られる。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援しているが、頑固で強く拒否されそのまま更衣しない方もいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしをしたり、周辺や口の周囲を汚れる方もいるが、尊厳を傷つけないように、片付けたリ、拭いたりしている。利用者様も「まあまあすみません。ありがとうございます」と笑われている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	望まれる方は行ける様にしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	気を付けており、ホームに美容師が来られ、カットしてもらったり、髭剃りは毎日行い、衣類なども家族と協力して、気候に合ったものを着て頂いている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	一人一人にあった食形態の提供に努め、その理由も職員は理解している。利用者様にもこれは〇〇ですよ等と説明している。				利用者によっては職員と一緒に食材の買い物に行き、買い物から帰ると買った食材を率先して運んでくれたり、下膳の手伝いをしてくれたりと自分できることを職員と一緒に取り組んでいる。地域住民からお裾分けのタケノコや栗など旬の食材を使用したり、行事毎に利用者が喜びそうな季節感のあるメニューを提供したりするなど工夫している。食器は使い勝手の良いものを使用しており、古くなると家族が新しいものを持ってくるようにしている。職員は利用者と食卓を囲み、利用者一人ひとりの様子を見守りながら食事をしている。重度の利用者を含め、調理の音や匂いを感じてもらっている。居室で食べる利用者もいるが、その場合は必ず職員が寄り添いメニューのことを話しながら介助している。利用者の状態に応じ職員間で栄養バランスのことを話し合い、医師の指示を受け、栄養に偏りがないうよう配慮している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	少人数ではあるが、料理の手伝いや片付けと一緒にしてくださったり、買い物して帰った職員を玄関まで迎えに行かれ、荷物を運んでくださったりする。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒に行ってくださる方は、ご自分も職員と同じように感じられている。お元気ではずたつとしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握しており、アレルギーについては、十分注意をしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	献立作りは、主として栄養士が行っているが、季節の物などを頂いたり、誕生日・イベント等の時は、職員が話し合い、献立を作っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	状態に合わせた工夫や、調理を行っているが、ミキサー食の場合、おいしそには見えないと思うが美味しいですよ等の声掛けをしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族が持って来てくださるが、状態によりコップや匙等は、職員が購入してくる事もある。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	昼食は共に、同じものを食べている。昼食だけでなく、朝・夕食も見守りし、ゆっくりと食べる様に声掛けたり、味付けについて話をしたりする。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音が聞こえ、匂いはわかると思う。食事の前になると声掛けなくとも居室から出る方も居られ、「私の食事あるの」と聞く方もある。待ち遠しいのか不安なのかはわからないが、食事には関心を持っている方が多い。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	特に水分には注意をしている。献立は栄養士が作っている。個々の摂取量は微調整を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	嚥下や咀嚼の問題があって摂取量が少ない方には、医師に相談したり、ゼリー状にして水分を摂取して頂いている。またミキサー・トミ等も取り入れ、栄養不足にならないように注意している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が居るので、栄養士が献立をたてている。旬の食材を使った料理が出来る時には、職員間で相談し変更をし利用者が喜ぶ食事を提供出来る様に心掛けている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は毎日買い物し、作り置きをしない。また調理器具は毎日ハイター等で消毒している。ノロを心配する時期は、出来るだけ生物は食べない。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	起床時と毎食後に口腔ケアを行い、口腔残渣物が誤嚥性肺炎に繋がる危険性がある事も理解している。				職員は利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握しており、毎食後歯磨きやうがい、スポンジブラシなどを使用して利用者個々の口腔内の清潔が保持できるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯の有無等は理解しているが、それ以上の事は訴えがあれば、観察し看護師に相談している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学んでいない				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来ない方もおり、職員が洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯磨き・うがい等は声掛けや介助を毎食後行っている。どうしても拒否される方もいるが、次の食後に声掛けをあきらめずに行っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	本人の訴えや、職員の気づき、家族の希望に対応して、適宜歯科受診を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ほぼ理解出来ており、下肢筋力の低下のある方でも、尿意がありトイレに行きたいと希望される方は、介助してトイレにて排泄を行って頂いている。				日中はトイレでの排泄を基本に支援している。布パンツにパッドを当てることやリハビリパンツやテープ止めおむつ、パッドの種類、交換時間など利用者それぞれの適正性について職員間で検討することで、利用者一人ひとりのその時の状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	ほぼ理解出来ている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	チェック表にて大体把握出来ている。便秘者が下剤使用にて反応便が出る時間帯も大体把握出来ている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個々のその時にあった支援を行っている。パッドの種類も考慮し、パンツにしても状態によっては、布パンツか紙パンツかという話し合い等は行い、パッドも個人により時間帯により変更している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	便秘に関しては、水分・野菜・果物の摂取、運動の勧め等を行っている。また頻尿にて睡眠不足の方等は、医師に相談する事もある。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンが大体把握出来ているので、出来ている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	こういう物(パット・パンツ等)があるので、使っていいかと言う了解は取っている。またどうしても布パンツを使用したいと希望される方には使って頂いているが、家族にも状況を話し、今適している物を使用できるようにゆっくりと進めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	一人一人のその時に合った物を使っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取の大切さや、野菜を食べる事の効果などを、特に家族が来られた時に、一緒にお話をさせて頂くとその時はご本人も良く理解される。日々、水分野菜・果物などの摂取に注意している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴の長さや温度は出来るだけ、本人の希望を聞か、体調によっては早めに出て頂く事もある。拒否のある方が、入ると言われ、夕方入って頂いた事はある。	◎		○	入浴時間の長さや湯音等は利用者の好みに合わせている。入浴日はある程度決まっているが、利用者からの要望があれば臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	普段あまり話さない方が、入浴中にはおしゃべりをされる。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身・更衣等、出来る方は見守りで行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間をおいて、再度声掛けしたり、声掛けの職員を変えたりしている。どうしてもダメなら、翌日に変更して様子見る。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタル測定を行い、判断できない場合は、看護師に相談している。入浴後も水分補給などを行い、疲れているようなら、臥床を促している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	大体は把握できている。夜勤帯は1時間毎に巡視を行い、状態観察を行っている。	/	/	/	良眠を得られるよう日中の活動を増やし、部屋の室温を十分配慮するなど、安易に薬剤に頼らない支援をしている。不眠が続く等やむを得ない場合は、医師と相談しながら薬剤を処方してもらっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	レクに参加したり、散歩・外気浴を行ったりしている。本来のリズムが、夜起きていたという方も居り、無理に眠らせようとはしない。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠導入剤を使用している方もいるが、転倒などの危険もあり、あまり使用しない様に努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	休みたい方には休んで頂き、体調がおかしい方には、声掛けし休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望者は出来ている。年に一回だけ新年に年賀状の様な物を、書いて頂き、家族に送っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	難聴の方には、話を聞きそれを伝えたり、手紙を書いてみないかと働きかけたりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望者には電話をかけて頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡し、電話で手紙が届いたと話して頂く。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族にもお願いしており、ケアプランに入っている方もいる。週に2回程かけて来られる家族(遠方)もおられ、ありがたいと思う。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を持っていると言う喜びや自信は理解出来ている。しかし所持されている方は数名であり、ほとんどの方は、家族が買い物をしてきている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物レクを行う時は、喜んで行かれるが、日常的には買い物には行かれない。特定の方になる。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	美容院等は、入所前から利用されている事もあり、協力を頂いている。利用者も安心して話をされている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	一部の方が所持しているが、使う事は稀である。買い物レクがあり、希望者については、買い物に行き、事業所が立て替えている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	使う時は相談するが、持っている方は一部である。ほとんどの方は、〇〇を買っていいかと聞く程度。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かっている方には、きちんと出納帳を記入し、毎月家族に送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	定期的受診、緊急時の受診等、職員が行っている。また買い物・散髪・カラオケなども出来るだけ希望に沿える様に努めている。	◎	/	○	緊急の病院受診や買い物、散髪等利用者からの要望があれば職員が付き添うなど、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門扉は無く、自由に入れる。玄関も一般家庭のようにしており、玄関に続くスロープの周囲には花や野菜を植えている。ベンチも設置し、利用者同士が話し合っている事もある。	◎	○	○	玄関には季節の野菜や花が植えられているほか、ベンチを置きリラックスできる空間づくりをするなど、気軽に入出入りできるよう配慮している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的とは言えないかもしれないが、毎月の季節に合った壁画を飾ったり、行事の写真を飾り、嬉しそうに見ておられる。浴室などは家庭浴槽であり、落着いて入浴出来ると思う。	◎	○	○	開設以来、家庭的な雰囲気を大切にしており観葉植物を置くなど、心地よさを感じられる空間になっている。リビングは広く明るく整理整頓され、清掃も行き届き清潔感がある。壁にはひまわりや花火、ぶどう等利用者と職員が一緒に作った作品が飾られているなど、季節感を味わうことができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気の時間も取り、掃除は頑張っている。食事の時間などはテレビを消している。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾り、季節の壁画を作っている。台所で食事を作る音や匂いを感じている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自分の好きな場所に座っている。仲の良い利用者同士と一緒に過ごす事が多い。また一人になりたい時は、ホールのすぐ近くに個室がある。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	浴室は良いが、トイレは戸を開けたままの方もおり、見える場合があるので注意している。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時には、自宅で使っていたものを持って来て頂くように話している。	◎	/	◎	居室は大切な家族の写真や時計等利用者それぞれ思い思いの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせる空間になっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	移動の為に手摺を付けている。そこで足踏み運動も行う。玄関には一人で靴の着脱が出来る様に、椅子を置いている。自室の入り口には、名前と写真を貼っている。	/	/	○	足元には不要なものがなく、廊下にはほどよい位置に手すりを取り付けられており、車いすでも自由に移動できるようになっている。居室には写真付きの名前を貼るなど工夫しており、安全に自立した生活が送れるようになっている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレの表示をつけたり、居室の入口には、名前と共に写真を貼っている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	裁縫道具は、使用しているが、直ぐに手の届く所にはおいていない。掃除道具は置いてあり、何時でも使うことが出来る。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	度々の勉強会などにより、鍵をかけるはいけないと皆理解している。その為の事故も起きない様に気を付けている。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関等の出入口は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	夜間以外は施錠していない事は話している。家族からも施錠の希望は無い。あれば、理解をして頂ける様に話さつもりである。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中はもちろん施錠はしていない。外に出ようとする方もいるが、一緒に行き、散歩のように近くを歩き、施設に帰るようにしている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント表と共に、月1回のカンファレンスにおいて、症状が変化し、注意点等が変わった方については話し、皆で共有出来る様に努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	早期発見には努めていると思う。バイタル測定も注意が必要な方は、数回回るように話している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師には相談が良くある。また異常と思えば、受診し、医師に相談を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人・家族の意志を尊重している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	医療の内容については、家族の思いは明確には解らないが、家族の希望による受診援助を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	異常などがあって、受診をした場合は、必ず報告をしている。必要とあれば、家族と共に受診し、説明を聞いている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	外来・病棟に於いて、状態を聞かれる。また介護サマリーの提供も行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室からの連絡のより、カンファレンスに出向いている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	退院後等も連絡を頂いたり、病院に行った際に地域連携室の方に相談する事もある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	施設内の職員として、看護師がおり、報連相は出来ている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間でも休日でも電話連絡を行っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃より、連絡相談を行い、変化があれば受診をし、早期発見・対応に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ほぼ出来ている。特に自分の担当者については、良く理解出来ている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	投薬前に、名前・日付け・朝昼夜等の区別を口に出して投薬している。また吐き出す方も居るので確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	副作用などを気にすることが出来る様になってきている。心配な事があれば看護師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	臨時薬の服用などにより、排泄障害や精神障害が出る事も理解できるようになり、看護師に相談をしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時には、あまり話していない。状態が変化してくれば、その時その時に、家族に話している。	/	/	/	利用者や家族、医師等関係者を変え、重度化や終末期のあり方について話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ターミナルケアを行うとなった時点では、医師などにも話し、共有、協力出来ていると思う。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	行っているつもりである。無理をしても良いターミナルケアは出来ない。また怖がっていても進歩は無いので、考慮している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	できること・できないことに関しては、入所前の訪問時、および入所時に話しているが、理解できない？忘れる家族もいる。入所後も状態に応じて繰り返し話す事もある。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族との話は良く行っていると思う。現在元気な方の家族は、ピンと来ていないが、重度化している方の家族は、真剣に考えられている。特養などを望まれる方には、申込書を代筆し施設に持っていく。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	努力しているつもり。家族からつらさや愚痴を話される事もあり、対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	町の研修などを受けたものが、勉強会で発表したり、インフルエンザの流行期に話をする。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練は出来ていない。対応については決めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	県や町からの情報は、注意して参考にしている。また町内の他の施設や学校などの情報も取り入れて対応している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	上記に同じ	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は徹底できていると思う。来訪者の方にも協力をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族が来られた時には、現在の状況を報告し、こんなことをしてもらった、こんなことも出来た等々、出来るだけ細かく話している。また体調不良で、点滴を病院で行う時は、付き添ってくださる方もいる。	/	/	/	家族に夏祭りや敬老会等行事の案内状を送付し参加してもらっている。また、利用者の様子がわかるよう行事の写真などを添え報告している。事業所の事柄は、面会時に報告することが多く、家族全員に報告するまでには至っていないため、今後は職員の異動等を含め家族全員に報告する取組みが望まれる。家族の面会時には必ず声をかけ意見や要望を聞くようにしており、職員からは利用者の日頃の様子を伝達するようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	宿泊は希望されれば、受け入れ出来る。来られたら笑顔で迎え入れ、帰られる時は、よほどのことが無い限り、玄関までお見送りをし、お礼を言っている。居室に限らず、ホールで面会される方も居られ、他者と会話される方もいる。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事への参加は必ず呼びかけている。花を持って来て頂き、スロープの所の花壇に植えている。ご本人の様子は、写真を送付している。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	電話で話したり、写真を送付している。年始には年賀状を送り、喜ばれた。	/	○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	連絡を行う際は、ご本人の立場に立って困っている事等を相談するような感じで報告する。その際家族の意向や希望等も傾聴するように努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	それぞれの家族に合わせた働きかけを行えるように心掛けている。入所してからも家族との繋がりが続くように、電話を使ったり、行事に参加して頂いたり、面会時にお話などをしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	この外部評価の事や、運営推進会議の案内などは、送っている。来所された際に、職員の異動などは話している。	/	○	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	敬老会などは、昼食前から15時頃まで、一緒に過ごして頂き、顔なじみの方も出来ている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時より、転倒などの事故の可能性も話している。また家族より、柵や薬の使用の話が出て、それによるリスクなども話し、抑制しない介護を行えるように協力をお願いしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来所時には、必ず声掛けをし、関係作りにも努めている。また体調が悪くなっているかたにおいては、頻りに報告をし、家族の要望も聞いている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	出来ている。変更時は書面に説明し、同意の文を貰っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	利用契約書、重要事項説明書に明記し、入所時にも説明している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	上記に同様	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時より、経営者が話し合いを持って説明している。	/	○	/	自治会の清掃に参加したり、自主的に事業所近くの清掃を行ったりして、機会が少ないため、今後は地域とのつながりをさらに深め、事業所の取組みがより地域に浸透するよう努めることが望まれる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会の清掃日には、代表が参加するが、日は違っても、利用者も共に、清掃をし、地区の方からお礼を言われる事もある。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	少しずつだが増えていると思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	夏祭りのイベント時には来て頂くが、普段は遊びには来られない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	回覧板を持って来て頂いたり、持って行ったりしている。時々果物やタケノコなどを頂く事もある。また散歩の際に挨拶は行っており、近くの方に花を頂いたりもした。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事には、必ず来てくださるボランティアの方が居り、顔なじみになっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	買い物や、美容院等に行き、知人に会い喜ばれる事もある。地域のイベントも参加したいが、なかなか出来ない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	日常的に、地域に買い物に行ったり、美容院に行き、外食なども行き、特別に系することなく、普通に交流を行えている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	今年に入り、利用者も参加して頂いている。もちろん家族の参加もあり、一応全家族に案内は送っている。	/	×	△	前回の外部評価結果を踏まえ家族全員に案内を行い、利用者や家族、地域関係者の参加も得られているが、家族の参加が少ないため、家族全員から運営推進会議の理解が得られるよう努めて欲しい。会議では外部評価結果や今後の事業所の取組みなどを報告してテーマごとに様々な意見が出され、実際にサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	現在のきらりの状況を話しており、外部評価の事も話している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回何らかのテーマに基づいた話をし、意見も聞いている。地区の区長さんの参加もあり、秋には避難訓練を地域の方々と一緒に行う話も出た。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加しやすい時間を考慮している。また勉強会を兼ねた場合は、職員が多く参加出来る様に配慮している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	職員は見えるが、ご家族には報告出来ていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、玄関・更衣室に提示しており、職員はその理念に基づける介護が行えるように努力している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関に提示しており、敬老会等で話したこともあるが、地域の方々には話していない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修には出来るだけ参加するように声掛けており、希望すれば研修に行ける様に、勤務調整も行っている。	/	/	/	代表者は週3日程度事業所を訪れ、職員から希望休等要望を聞き勤務シフトに反映してストレス軽減に努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ユニット内にはいり、一緒に仕事をしながら、持っている知識や技術等は教えている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	半年に一回の面談があり、自己評価をつけ、それにより各自の実績を評価、次への意欲を持たせるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内のグループホームの管理者の集まりがあったり、町内の福祉施設の勉強会、町で取り組むイベントなどには参加出来ている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	折に触れ話を聞いてもらっている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	委員会もあり、年に2回の勉強会も行い、理解出来ている。	/	/	/	「スピーチロック」を課題にして虐待防止に取り組むなど、職員の意識も高まっており、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順等についても理解し共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	仕事の中で、反省したり、話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	課題として、「スピーチロック」を取り上げ努力してきた。まだ万全とはいえないが、だいぶ浸透してきており、互いに注意する姿や反省の言葉も聞こえている。対応方法なども学習している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	疲れていないか、体調はどうかと声掛けを行っている。イライラしているかなと思えば、話を聞くようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会などにより、理解出来ている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月1回のカンファレンスの時や、委員会において、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束によるリスクを話し、拘束は行わないと言う施設の方針を理解して頂いている。拘束をしない為に起こり得る危険も話し、怒らない様に努める為に、このようにしたいと言う事等も話している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修を行い、少しずつ理解を深めていっている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	今後必要になるかもと言う事で、ご家族に簡単に話したことはあったが、まだ成年後見人制度を使用した方はいない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要になれば、教えてくださいと言うようにお話をさせて頂いているが、現在は利用していない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルもあり、周知できている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	研修や訓練は行っても、実践力は身につけていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書はもちろんだが、ヒヤリハットの意義も理解出来てきていると思う。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンス等で、このような事が起こり得ると話し、見守りアンテナを張っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作っていないが、対応については適宜話している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	町に相談するまでの苦情はないが、苦情が出れば、上司に相談し対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	出来るだけ早く解決できるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設置している。入居者からは、日々の生活の中で、困っている事嫌な事等も言ってもらえるような関係作りにも努めている。			○	利用者からは日々の生活の中で、家族からは面会時や運営推進会議、家族会でそれぞれ意見や要望を聞いている。管理者は職員から意見や提案等を気軽に聞ける関係を築いており、日頃から利用者本位の支援を行う運営について話し合う機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設けている。面会に来られた時に「何かご要望は無いですか」と聞いている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に貼りだしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	度々来られ、職員の中に入り、話を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃からユニットと一緒に仕事をしており、勤務中に意見や提案を聞く機会も多い。利用者中心の介護を行えるように努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員全員で取り組んでいる。				運営推進会議で今後の事業所の取組み等について報告しているが、参加者にモニターをしてもらうまでには至っていないため、今後は参加者から事業所の取組みのモニターをしてもらえる程度の理解が得られるようになることが望まれる。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	外部評価の結果を職員に話し、事業所の問題点を明らかにし、改善できるように努めている。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、説明・掲示している。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で説明し、家族にも送っている。モニターはしてもらっていない。	○	○	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	次回の目標を話す時に、成果の確認をしている。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	必要と思われるマニュアルは作成している。				年1回消防署立ち会いで火災避難訓練や年2回津波避難訓練を行っているが、地域住民参加の合同避難訓練の実施には至っていないため、利用者の安全確保に万全を期すためにも、今後は地域との合同避難訓練を実施するなど、緊急災害時の協力支援体制の構築に努めて欲しい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日勤帯と夜勤帯と言う事で訓練を行っている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は外部に委託して行っている。非常用食料は、水と乾パンを準備しているが、期限が切れた事もあった。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、訓練の依頼などを行えている。運営推進会議の中でちいきの方々とは今秋には訓練を行う話が出来ている。		○	△		△
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行っていない					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議においては、認知症ケアや予防などについて話している。しかしそれ以外の活動は行っていない。				入居申込み時等に利用者家族の知人等からの相談を受け助言を行っている程度で、地域の相談ニーズには対応できていないため、今後は相談件数が増えるよう地域へのPRなどを積極的に取り組むことが望まれる。診療所の納涼祭や地元のふれあいいきいきサロン、小学生の太鼓披露や高校生のボランティア部の夏祭りなどへの協力を行っているが、関係機関と協働のイベント実施には至っていないため、今後は事業所と地域機関との連携の地域行事等を企画・実施するなど、地域における福祉の拠点になることを目指して欲しい。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入所申し込み時や施設見学时に相談を受ければ話しているが特に相談会は催していない。散歩のときに相談されたり、入所者様家族から「こんな人がいる。どうしたらええ？」等の相談は受けている。		×	△		
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていないが、要請があれば行ってきたい。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	要望が無いため行っていない。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町内会に入っており、清掃活動への参加している。地域イベントにも参加している。他事業所の夏祭りへのボランティア参加も検討しており、自施設のイベントには、他事業所の参加もあった。					△